

	項目	現状と課題
1	人材育成・資質向上	若手刑事や医師・歯科医師の人材不足や経験不足、研修機会の確保が課題（県警、県医師会、県歯科医師会、島根大学、松江日赤）
2	死因究明等の実施体制	<p>昼夜・休日を問わず対応が必要なことや人材不足のため、一人ひとりの業務負担が大きい（県警、県医師会）</p> <p>人材不足を補うために、医療DXの活用が必要（県歯科医師会）</p> <p>Aiによる画像検索は検査料が家族負担となるため、検査を拒否されるケースがある（松江日赤）</p> <p>検視実務研修の修了者が少ないため、同研修の受講者を増やす必要がある（浜田海保）</p>
3	死体検案・解剖等の実施体制	<p>夜間・休日の対応もあり、検案医師や警察嘱託医の確保が課題（県警、県医師会）、病理医や立会医師の経験不足（松江日赤、浜田海保）</p> <p>メール等で画像のやり取りが素早く簡単にできるような相談体制が必要（島大）</p>
4	科学的な調査活用	<p>腐敗遺体のAi検査は出雲で行っており西部の警察署は負担が大きいため、検査可能医療機関の拡充が必要（県警）</p> <p>Aiは診断の個人差が大きく、統一化された見解を得るのが難しい（島大、松江日赤）</p>
5	大規模災害時等の身元確認	<p>大規模災害発生時は、多くの死体検案と身元確認作業が必要になるため対応が困難になることが予想される（県警、県医師会）</p> <p>身元確認時のデータ活用の可能性（県歯科医師会）</p> <p>マニュアルに基づいた訓練の実施や連絡体制の確立など有事に備える必要がある（県警、島大）</p>
6	情報活用及び遺族等への説明促進	<p>根拠をもって死因や身元を特定し、その結果を遺族に説明することは重要（県歯科医師会）</p> <p>複数機関で情報を活用するには、データなどを取りまとめる機関が必要（島大、松江日赤）、個人情報保護について配慮が必要（県警、松江日赤）</p> <p>犯罪被害者支援制度の対応強化をしており、担当者の育成が必要（浜田海保）</p>